

世界の光

2014年2月9日 マタイによる福音書5章13節-20節

今日の説教箇所は山上の垂訓の8つの幸いな人に続く箇所です。神の民であるクリスチャンがどのように生きるべきかを教えています。

マタイによる福音書5章13節-20節

5:13 あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。5:14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる事ができません。5:15 また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。5:18 まことに、あなたがたに告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。5:19 だから、戒めのうち最も小さいものの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。5:20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

地の塩

イエスはご自分の弟子たちを塩にたとえられました。塩は日常生活で欠かせない物です。塩は食べ物に味付けをしたり、風味を引き立てたり、夏の熱中症予防に欠かせない物です。イエスの時代には冷蔵庫はありませんでしたので、食べ物の腐敗を抑える効果がありました。そうです、神の戒めを守るものがいないと、この世は腐敗してしまうのです。塩は砂糖と同じ色でにおいもなく見た目にはわかりにくい物ですが、塩と砂糖の味付けや腐敗の効果では天と地の差があります。塩と砂糖を間違えて入れた経験を持つ人もいるかも知れませんが、塩が砂糖の代わりになることはないです。そして塩と砂糖を間違えて入れても、決しておいしくなるわけでも腐敗の効果が上がるわけでもありません。13節で、神はすべてのクリスチャンを「地の塩」と呼んでいます。もし塩が塩気をなくしたら皆さんも捨ててしまうでしょう。それはだだの白い粉になってしまいます。同じように私たちクリスチャンも神の喜ばれる信仰を持って生活しないと塩気のない塩にすぎないのです。

人々の前で輝く光

14節でイエスはすべてのクリスチャンを「世界の光」と呼んでいます。イエス・キリストは真の光です。そしてこの世は暗闇です。私たちも以前は暗闇に生きる者でした。アダムとイブが罪を犯してからすべての人間は暗闇を歩いているのです。暗闇の先に待っているのは永遠の地獄でした。そこから私たちを救ってくださったのはイエス・キリストです。私たちは暗闇の中で光を見たのです。この光は永遠の命でした。この光を信じた者は、暗闇から神の栄光の中に行くことができる特権が与えられます。イエス・キリストこそが、私たちを救うことができる唯一の方なのです。

イエスはヨハネ8章12節でこう言っています。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」またヨハネ12章35節と36節でこうも言っています。「まだしばらくの間、光はあなたがたの間にあります。やみがあなたがたを襲うことのないように、あなたがたは、光がある間に歩きなさい。やみの中を歩く者は、自分がどこに行くのかわかりません。あなたがたに光がある間に、光の子どもとなるために、光を信じなさい。」

私たちクリスチャンは闇の中を歩いている人たちの光とならなくてははいけません。15節にこう書いてあります。「また、あかりをつけて、それを柀の下に置く者はありません。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。」空を見ると昼は太陽、夜は月や星がたくさん見えます。月や火星、木星、金星、土星のような星は自ら光を放っているわけではありません。太陽の光を反射させているだけですが、私たちの目には自ら光を放っているように見えます。ちょうどそれと同じように、私たちが光となるわけではなく、イエスの光を鏡のように反射させるだ

けです。私たちクリスチャンひとりひとりが、そして教会がイエスの光として模範になるのです。それは神の愛を人々に示すことによって、この世の人々が神をあがめるようになるためです。「5:16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」

律法の成就

5:17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っはなりません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。

5:18 まことに、あなたがたに告げます。天地が減びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすたれることはありません。全部が成就されます。

(ある意味で)、天国に行く方法は2つあります。1つは皆さんも知っている信仰の救いです。もう一つは、方法はあっても、誰も行くことができない方法です。それは、生きている間、神の律法を一度も犯すことなく守る(罪を犯さない)と言う方法です。しかし、罪人である人間にそれはできません。しかし、人間として生まれてきたイエス・キリストはこの世で一度も罪を犯しませんでした。イエスは律法をすべて守り、旧約聖書の預言を成就させました。イエスは一度も律法を犯さなかったので天国に行く権利がありましたが、私たちの罪のためにすべてを負って十字架にかかり、私たちの代わりに地獄に行きました。それによってクリスチャンは天国に行けるのです。こういうわけで私たちクリスチャンは喜びがあり、希望があるのです。聖書のことはすべて成就されると神は約束しています。私たち人間の約束はすぐに破られたり、変更されたりしますが、神は約束を破ったり、変更されることは決してありません。このような神だからこそ私たちは信頼することができるのです。

信仰による救い

5:19 だから、戒めのうち最も小さいものの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るように教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。

5:20 まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

律法学者やパリサイ人と聞くと私はあまり良いイメージが持てません。しかし彼らはよく律法を学び、それを守ろうと熱心に努力していた人たちでした。彼らは律法を守って天国に行こうとしている人でもありました。つまり、良い行いによって天国に行けると考えていました。しかし人間は律法を守ることができないのです。ここで気をつけなければならないことは、どうせ神の命令は守れないから少しくらい破っても良いと考えてはいけないうことです。そうではなくて、聖書を正しく学び、教えてそれを生活で実行しなくてはなりません。しかしその行いで救われるものではありません。イエスを信じる信仰によってこれらのことを行うのです。

ローマ書でパウロはこう言っています。「3:28 人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。」

兄弟姉妹の皆さん、あなたは「世の光」です。イエス・キリストの光を反射させてください。自己中心的に生きるのではなく、神の喜ばれる生活をしましょう。それは神を心から愛し、隣人を自分自身のように愛することです。暗闇の中にいる人々にイエスという希望の光を知らせましょう。イエスはこう言っています。「わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。」(ヨハネ 12:46)。

どうか私たちクリスチャンが世界の光となって、神の栄光をこの暗闇を歩く世の人々に宣べ伝えることができますように。アーメン